

条幅部自由参考

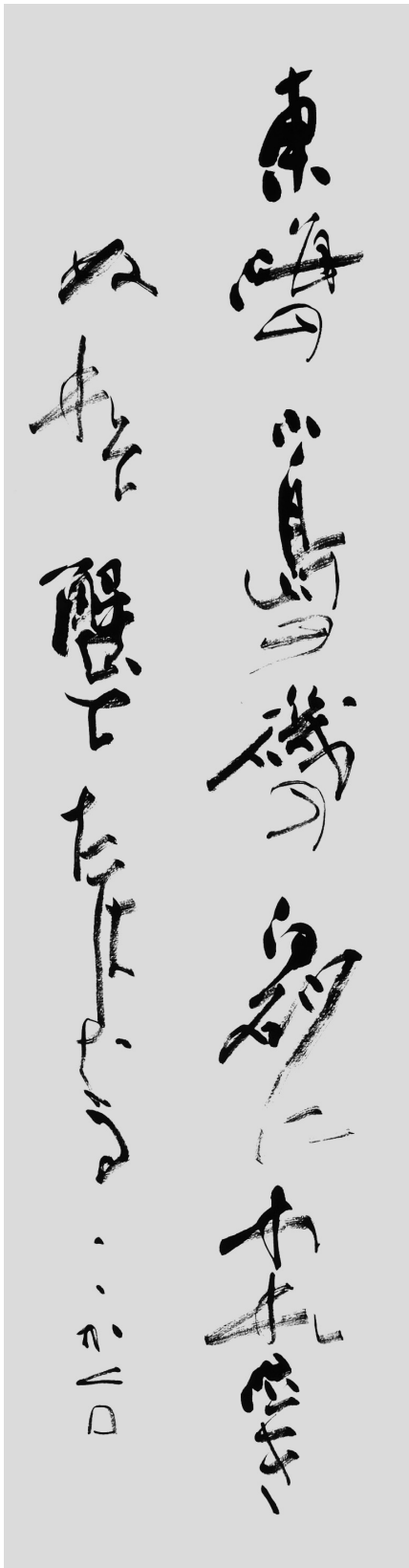
8月25日正午必着

明石春浦先生書



いえをはなれてさんしげつ
 離レ家 三 四月
 なみだをおとすひゃくせんぎょう
 落レ涙 百 千行
 ばんじみなゆめのことし
 萬事 皆 如 夢
 しじひをあおぐ
 時 時 仰 彼 蒼 (菅原道眞)

明石幸子書



東海の 小島の磯の 白砂に われ泣きぬれて 蟹とたはむる (石川啄木)



山僧對碁坐 局上竹陰清
映竹無人見 時間下子聲

(白居易)

山寺和尚が対局して腰をおろすと、碁盤の上におちる竹の葉かげは清らか。竹におおわれて見る人もなく、時おりきこえるのは、碁石をうつ音。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

醉裏樂天真(漢王煦)

醉裏天真を樂しむ

酒に酔い、天真らんまんに樂しむ。

青山前與後 白雲西又東
縱有經過客 消息應難通

(良寛)

青山前と後と 白雲西また東。
たとひ 經過の客あるも 消息 まさに通じ難かるべし。

前もうしろも 青い山
西も東も 白い雲。
たといおいでに なられても
わしのすがたは わかるまい。

送許棠

(張喬)

許棠を送る 張喬

離郷積歲年 歸路遠依然

郷を離れて 歳年を積み 歸路 遠くして依然たり

夜火山頭市 春江樹杪船

夜火山頭の市 春江樹杪の船

干戈愁鬢改 瘴癘喜身全

干戈 鬢の改まるを愁い 瘴癘 身の全きを喜ぶ

何處營甘旨 波濤浸薄田

何れの処にか 甘旨を営まん 波濤 薄田を浸す

すずめ子の一羽とまりて 鳴く見れば あをき細枝に 朝日さゆらぐ

(若山 牧水)

半紙部規定課題A

8月25日正午必着

端屢
地入
忘

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書

屢入忘
歸地

屢入忘
歸地

隸書

屢入忘
歸地

屢入忘
歸地

明石春浦先生書

草書

回れる塘には、越の地の水が分れて流れており、年古りた樹々には、呉の地の煙がいつぱいにむらがる
竹は地を掃うかのように揺れて、席を敷くように催促するし（池塘のほとりには）蘿が垂れ下り、船をつなぐのを待つ
ているかのよう

行草書

鳥ははじけたばかりの栗の実をのぞきこみ 亀はなかなば傾いている蓮の葉の上にあがる
帰ることを忘れてしまうこの庭園をしばしば訪れるたびに 俗事に束縛されているこの身を思い、深いためいきをつく

秋日過_二徐氏園林_一 包佶

回塘分越水_一

古樹積吳煙_一

掃竹催鋪席

垂蘿待繫船

鳥窺新罇栗

龜上半敬蓮

屢入忘歸地_一

長嗟俗事牽

秋日_一 徐氏が園林に過る

包佶

回塘 越水を分ち

古樹 吳煙を積む

掃竹 席を鋪かんことを催し

垂蘿 船を繫がんことを待つ

鳥は窺う新たに罇けし栗

龜は上る 半ば敬つ蓮

屢く帰ることを忘るる地に入り

長く嗟す 俗事に牽がること

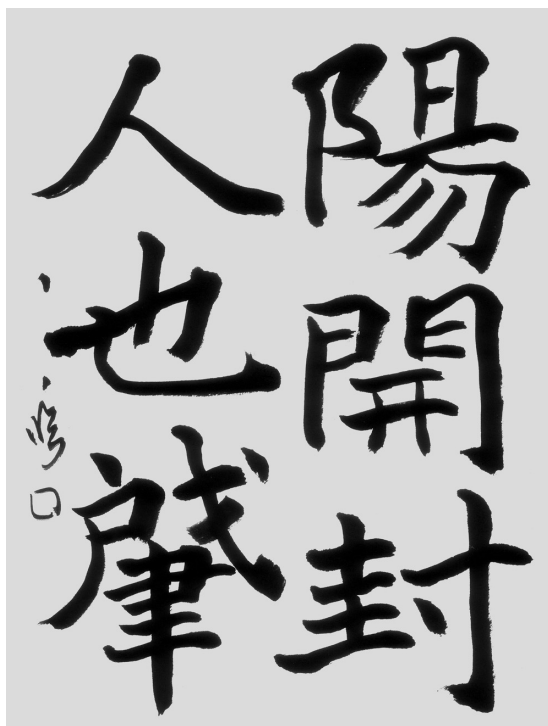
(出典)

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

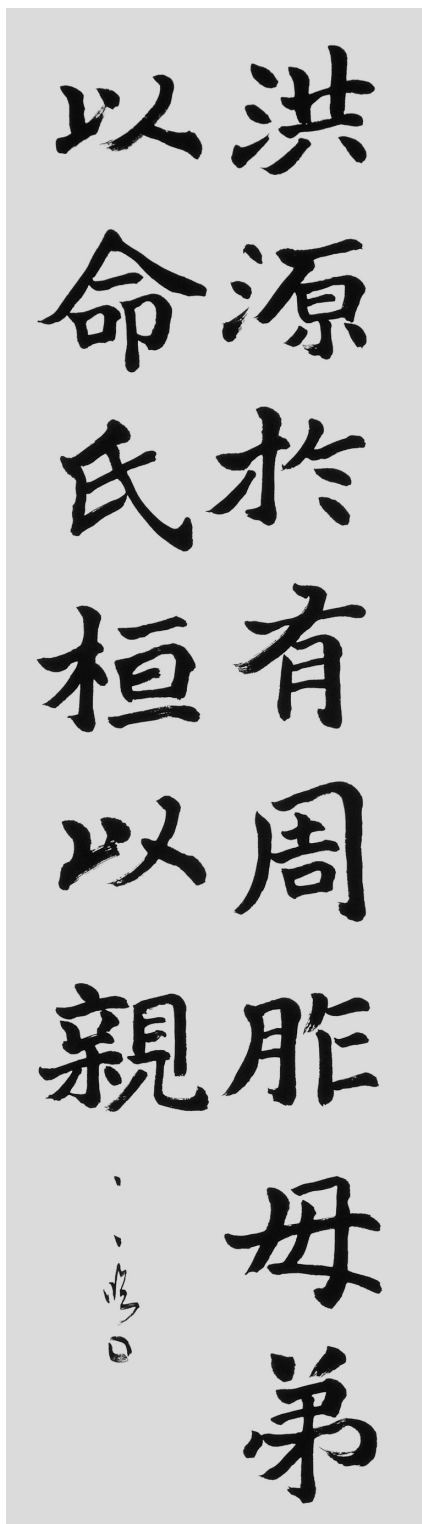


驎、司州滎陽開封人也。驎洪源於有周、昨母弟以命氏、桓以親賢司徒、武以善
（字は幼）驎、司州滎陽開封の人也。洪源を有周に襲め、母弟に昨いて以て氏を命づ
く。桓は賢に親むを以て司徒たり、武は（戦に）善きを以て（並び歌はる。）

8月25日正午必着



(司州祭) 陽開封の人也。(洪源を有周に) 肇め、



洪源を有周に肇め、母弟に胙いて以て氏を命づく。桓は(賢に)親しむを以て(司徒たり)

北魏 鄭道昭・鄭羲下碑

山東半島の北岸から南へ下った所に雲峰・寒同・太基・天柱の諸山が連なるが、ここに北魏時代を代表する能書、鄭道昭の摩崖碑を数多く見ることが出来る。鄭羲下碑はその中の一つで、鄭道昭が父鄭羲の事跡などを後世に伝えるべく摩崖に刻した頌徳の碑である。最初に天柱山の高く険しい岩壁に刻したが、更に良い場所を求めて雲峰山の崖石に彫り直したものである。

鄭道昭は、幼少より学問を好み群書を博覧したといい、自ら中岳先生と号した。とりわけ晩年は道教の熱烈な信徒だったらしく、数々の役職に就くもその行政は法律主義を排した寛容なやり方で市民の信望を得たという。鄭羲下碑は、高さ約二m、幅約三・四mの碑形に刻されているが、摩崖への揮毫・刻字の労力は実に辛苦であったにちがいない。鄭道昭の書は一点一画に気を配った沈着な用筆、しかも謹厳、緊張のうちにゆとりのある書き方で、あくまでも精妙である。波打つように引く横画、伸び伸びとした波法、大きく肩をうねらせる冠など、その筆法は北魏らしい雄勁さに満ち、同時に特異な暢達さを交えている。

世に、同時代の書聖王羲之の書を『書齋芸術の華』、鄭道昭のそれは『野外芸術の精華』と評されるが、まさに楷法の善美を尽くした姿を遺したと言っても過言ではないであろう。(春廣)



雨宮春聲先生書

ねっ
熱

さ
砂

中学一年



菅井松雲先生書

むさしの
武蔵野

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



うな
海

ばら
原

小学五年

榎戸春龍先生書



ぎん
銀

が
河

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着



だ
山

し
車

小学三年

藤田幸春先生書



り
力

え
泳

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

む し 小学一年・幼年



森戸春濤書

ぎょう ずい 行 水 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

物が集うなぞの海だ	この辺りはきよ大生
-----------	-----------

小学五年

とつぜん白波がたち	始めた魚の大群だ
-----------	----------

小学六年

窓を開けると体と心が	ゆっくりと目覚めた
------------	-----------

中学

生きることは能力の限	界への挑戦といえる
------------	-----------

一般(級位)

ひとかたにありの木の葉のまじり	夕立おくる風ぞすずしき
-----------------	-------------

一般(段位)

ひとかたに 木々の木の葉を 吹き返し 夕立おくる 風ぞすずしき (伏見院)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

の	あ
	か
か	や
き	
ご	き
お	い
り	ろ

幼年

め	う
ず	み
ら	で
し	み
い	つ
貝	け
	た

小学一年

は	ふ
い	か
	つ
て	森
い	の
く	中
	へ

小学二年

い	ポ
	ツ
麦	
茶	ト
を	に
入	つ
れ	め
る	た

小学三年

南	オ
の	ー
島	ロ
へ	ラ
行	が
っ	見
こ	え
う	る

小学四年

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

庭のおもは
八は
まだ
堂可
可
可
耳に
夕だちの
多遅
の
そら
曾
さりげなく
利遣那
寸免
すめる
月かな
可奈

庭のおもは
八は
まだ
堂可
可
可
耳に
夕だちの
多遅
の
そら
曾
さりげなく
利遣那
寸免
すめる
月かな
可奈



松永翠舟先生書

庭のおもは
八は
まだ
堂可
可
可
耳に
夕だちの
多遅
の
そら
曾
さりげなく
利遣那
寸免
すめる
月かな
可奈
(源 頼政)